

「地の上に平和が」

～クリスマスの奇跡～

ルカ2:8～15

私達は真っすぐに聞かないといけません。思い込みや先入観があると、正しく聞く事が出来ません。私達はわかっているけど、出来なくて、建て直したいのに古いものを使っているの、いつまでも建て直せないでいます。ある教会が会堂を建て直す為に今の建物の建材を使って建て直す事に決めました。でも、建て直したい場所で、今の建物を使っているの、場所と建材は今も使われているの、1年たっても建て直せませんでした。このような事があるのです。でも、クリスマスは、頭と心と体が一つになる奇跡の時です。救い主が生まれた事を一番に天の使いから知らされたのは、羊飼いでした。彼等は羊の為に命を差し出した動物以下の扱いともいえる当時の社会で見下されたような存在でした。これは、良きサマリア人の話と似ています。

ルカ10:25～37

パリサイ人がイエス様のもとにやってきて、試すために「何をしたら救われるのか」と質問しました。あなた方はどう思っているのかとイエス様に聞かれて、律法学者達は「心を尽くし思いを尽くし、力を尽くし知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。又、あなたの隣人をあなた自身の様に愛せよとあります。でも、私の隣人とは誰ですか？」と自分の正しさを示そうとしてイエス様に尋ねました。その為、イエス様はたとえ話をされました。「強盗に襲われ半殺しの目に遭い倒れていた人に対して、祭司もレビ人も近寄りもせず、反対側を通りすぎていったが、サマリア人はその人に哀れみをかけ、介抱してあげた」という内容です。どうしてこのたとえ話でイエス様はサマリア人を選んだのでしょうか？サマリア人は、紀元前721年の北イスラエル滅亡後にアッシリア王が移住させた植民地の子孫であり、混血の外国人としてユダヤ人からさげすまれていた人達です。イエス様の話の聞きながら、律法学者達は、当時祭司職はけがれてはいけないう、死人に触ってはいけないので、死んでいくかもしれない人を見ても触らなかつたのは当然の事と思い、サマリア人が話に出てきた時、ユダヤ人を憎んでいるサマリア人なら、倒れていたユダヤ人にとどめを刺したのではないかと思っていました。だから、イエス様にこの話で隣人は誰かと聞かれたパリサイ人はサマリア人とは言えませんでした。イエス様は彼らのサマリア人に対する差別がメシアに対する差別だと言いたかつた。私達の中にもこういう積み重なった見下す思いがあります。多くの人の事は赦せるのに、隣人の又、家族のここは嫌だという思いがあるのです。又、近隣諸国の中国や韓国に対して2～3代前から軽蔑する事が当たり前の様な思いがあり、愛し合えない関係になっています。この壊れた価値観にイエス様は寄り添いに来られました。それが良きサマリア人であり、私だと伝えたかつたのです。サマリア人とはイエス様の事。良い行いをする人ではありません。

1. クリスマスの出会い。 本当の救いをもたらす

殴られ倒れていたのは私達であって、この人だけは受け入れたくもないという人を使って救いをもたらされるこれが、良きサマリア人のたとえであり、本当の意味です。イエス様は私達に寄り添う為に来られたが、痛んでいなかったパリサイ人やレビ人はそれがわかりませんでした。わかつたのは、痛んで死にかけていた人です。今、神様が伝えたい事は、あなたの心の中に、盗まれて奪われている状態がある事を知る事です。そうでないとイエス様が分からないからです。教会とは弱さを認めた人にしかその意味が分からない場所です。片意地張って自分には〇〇があるとやっているとわからないのです。そういう人がやる事は見下す事です。だから、イエス様を理解できず、十字架にかけました。神様の前に弱者である事を認める。もう立てない状態の心がある事を認める。人の前に着飾って元気です、大丈夫ですと言って教会にいらなくていい。

私達の教会は良く仕え、良く働く教会ですが、自分の中に弱さがある事を知らないと、自分の目線がパリサイ人の目線になってしまい、試す方法でイエス様に向かってしまいます。

2. 平和の君。和解をもたらす

ある男の子が死に場所を探して街を歩いていました。クリスマスが近い時で、ふと、教会の十字架が目にとまり男の子は教会の中に入って行きました。この男の子は、両親は離婚して母親に育てられますが、母親の再婚相手である父親から虐待を受け、笑い声も聞けない家庭で育ちました。自分が父親から殴られていても母親は守ってくれなかつた事がつらくて、そんな母親が許せず家出しました。唯一の身内である母親が敵で、学歴も中学卒で、その後の人生でも、人から馬鹿にされ、愛される事もなく、仕事も続かず、絶望して死を選ぼうとしていたのです。そんな彼にこの教会の牧師は、彼の話を聞き、あなたの人生を平和にする為に死んだ人がいるとイエス様の事を伝えました。彼はその日初めて酒も薬も飲まずに眠る事が出来たと言ひ、その後教会に行くようになりました。彼は、神様に、自分にあなたがいる事を教えて下さいと祈るようになり、やがて母親の所に行つて母親を赦して、引き取り和解したのです。これが、サマリア人の話です。彼はやがて結婚し、その子供は牧師になりました。その牧師から聞いた話です。

サマリア人とユダヤ人の中に殺すまでに至っていた憎しみに赦しを与えられる。寄り添って下さるイエス様に出会って、あなたの憎しみ罪が赦されて癒されると救われるという話です。マタイとルカの福音書にイエス様の系図がありますが、そこにあるのは最も低い人と高貴な人の和解です。神様は平和をもたらされます。赦せない過去、悲しかった過去がイエス様によって癒されていく。触って欲しくもない彼らに助けられるなんて嫌だという、そんな事で癒されるという事です。神様は私達が思っている方法とは違う方法で解決されます。言葉が真っすぐに聞こえず、決断すればできるのに、選べず、言っている事がわからないと平和に至りません。助ける言葉を裏から聞いてしまい、人の言葉を間違つて聞いてしまう事になるからです。そんなあなたも、自分が苦しんでいる事を素直に認め、差し出される手を取り、水を受け取れば癒されて救われるのです。盗まれ、裸になって、生きるか死ぬかになって初めてわかります。私達が選ぶ道は素直に差し出される手を掴む事です。今、痛いですが、辛いですと素直に神様に向く事が出来れば、本当のクリスマスになるのです。

3. 癒された者は何を？

サマリア人に助けられたユダヤ人は今までとは違う生き方をしました。もし、あなたが、強盗に襲われた人なら、あなたはどう生きていきますか？暗闇にいる人に良きサマリア人に接するようにください。世の中の人には教会に入りたくないの、クリスマスに教会の外でマルクトをします。教会の建物に意味があるのではなく、本当の命は私達自身であり、本当の命が教会にあれば、人々は変わるのです。自分の人生を置いて寄り添ってくれた人がいたからこそして私達も教会に来ています。だから、自分達も神様を証する者になりたいと思ひます。平和とは何でしょうか？それは愛する事です。和が平らになる事です。憎しみは谷、怒りは山です。でも、それらが愛によって平らにされていきます。道を整えよとイエス様の誕生の前に言われた事です。つまり石は人々を裁く事であり、憎しみや怒りです。クリスマスは癒される事、赦す事です。癒されるから赦す事が出来ます。自分を優れた者と思わないで下さい。自分は強盗に襲われて身ぐるみ剥がされた者、捨てられた者です。教会は着飾ってくる場所ではないです。あなたの痛みを出す場所、それと向き合う場所です。今あなたの重荷をイエス様が負って歩いてくれている愛を感じて下さい。イエス様の愛に目を向けて下さい。

(要約者:日名 陽子)

(12月17日)